

## 1 研究主題

附属校園連携研究テーマ『かかわり合う力』をはぐくむ

子どもが夢中になって遊ぶ環境とその援助～体を動かして遊ぶ～（2年次）

## 2 主題設定の理由

### （1）今日的課題から

平成24年3月に出版された文部科学省の「幼児期運動指針」によれば、幼児期における運動の意義として、体力・運動能力の基礎を培う、丈夫で健康な体になるということに加え、意欲的に取り組む心が育まれ、協調性やコミュニケーション能力が育ち、認知能力の発達にも効果があるとされている。つまり、健全（丈夫で健康）な体が生活能力や知能にまで良い影響を及ぼすということが検証されている。

しかしながら、都市化や情報化の進展によって、幼児の生活空間の中に自然や広場などといった遊び場が少なくなり、テレビゲームやインターネット等の室内の遊びが増えるなど、運動の体験が少なくなってきた。加えて、少子化、核家族化の進行により、幼児同士が集団で遊びに夢中になり、時には葛藤しながら互いに影響し合って活動する機会が減少するなど、様々な体験の機会が失われている。

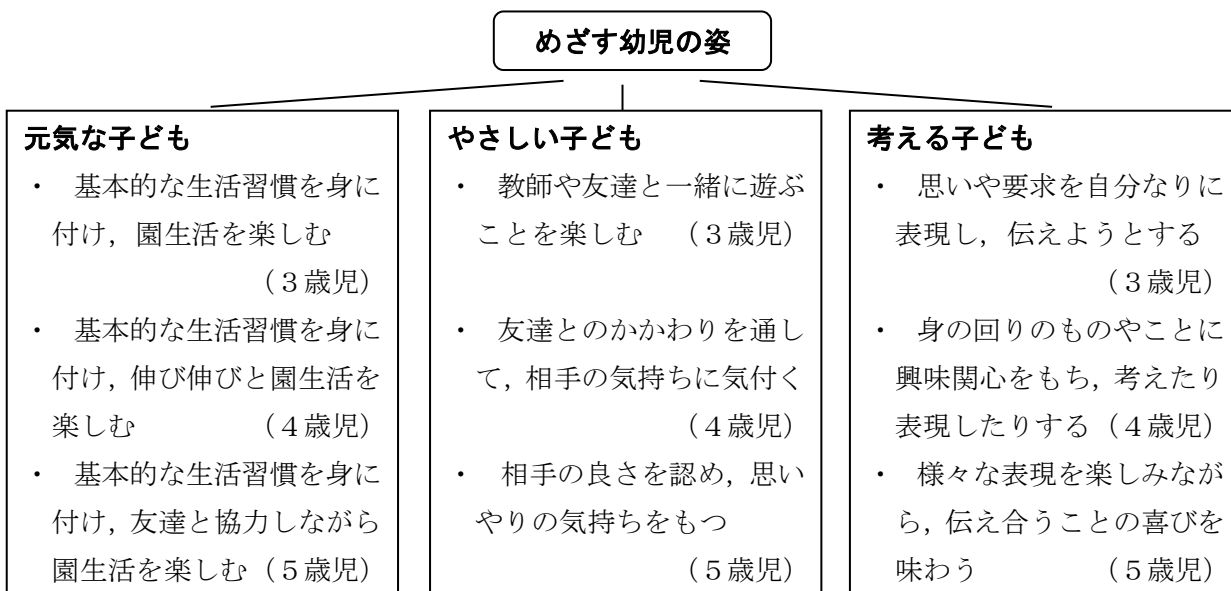
日々の保育の中で目の前にいる幼児を見つめてみると、運動経験の未熟さからボールの投げ方が分からない、高い遊具の上で腰が引ける、しなやかさに欠ける体の使い方から人をよけて走れずぶつかってしまう、支持する力の低下から椅子に座るとすぐにもたれるなど、運動能力について気になる姿が近年多くなっている。

体力は、人間の活動の源であり、健康な生活を営むうえでも、また物事に取り組む意欲や気力といった精神面の充実にも深くかかわっており、成長・発達を支え、より豊かで充実した生活を送るために重要なものである。運動は発育発達を促すとも言われている。

### （2）本園教育目標の具現化から

本園では、幼児の自発的な活動を基軸として保育を進め、主体的な（好きな）遊びを通して、幼児一人一人の望ましい発達を図ることを目指している。

教育目標として「お日さまいっぱいふりそそぐ中で『元気な子ども』『やさしい子ども』『考える子ども』を育てる」を掲げ、学年ごとに目標を設定し、めざす幼児の姿としている。



幼児が夢中になって遊ぶ（主体的な遊びが展開される）ことで、幼児のかかわる力が育ち、本園の教育目標（めざす幼児の姿）が具現化されていくものとする。

### （3）本園幼児の姿（昨年度の成果と課題から）

#### 年少

- ・保育室、テラス、園庭と遊ぶ範囲を少しずつ広げ、安心して遊ぶことができた。
- ・初めての体験の中で、様々なことに興味をもち、意欲をもって活動することができた。
- ・まだまだ、自分の四肢など体を上手く使えない年少児なので、全身を使った遊びの展開を工夫すると、落ち葉プールに飛び込んだり、落ち葉を空高く舞上げたりするなど、ダイナミックな動きが見られるようになった。
- ・友達とかかわって体を動かして遊ぶことができるようになってきたが、幼児の個人差が大きく教師が中心となって遊ぶことが多かった。

#### 年中

- ・ごっこ遊びを好み、その役になりきって遊ぶことができた。
- ・教師を中心とした遊びから少しずつ、自分たちでルールを決めて鬼ごっこなどを楽しむことができるようになった。
- ・少し危険を感じる場面でも、教師がしっかり安全を確保することにより、様々な遊びに取り組み、挑戦する気持ちが育ってきた。
- ・多くの幼児が園庭で遊ぶことを楽しむ一方で、室内遊びから抜け出せない幼児もいた。
- ・クラスごとの遊びの盛り上がりが見られた反面、学年のかかわりをもっと深められると、遊びにも広がりが出てきたように思う。

#### 年長

- ・年長という気持ちから、様々な遊びに挑戦し、活発に遊ぶことができた。
- ・楽しい遊びやダイナミックな動きを写真にして示すことにより、幼児の関心が高まり、その遊びが継続し、にぎわいが生まれ発展していった。
- ・リレー遊びや、サッカー遊びなどチームに分かれて遊ぶ遊びでは、どのようなルールにするとみんなで楽しく遊ぶことができるのか、葛藤する場面が多かった。活動を重ねるごとに、折り合いを付けたり、ルールを工夫したりするなど、相手を意識して遊ぶことができるようになった。
- ・一人一人が気の合う仲間を見付け、自立して遊ぶことができた。みんなで一つの遊びを協同して作り上げて行くために、役割分担をして、組織を作って遊ぶ体験を増やしていくと、さらに遊びが充実するのではないかと考える。

### （4）これまでの研究から

子どもが夢中になって遊ぶ姿とは、幼児自身が遊びを楽しみ、満足感や充実感を得ながら友達と協同して遊びを発展させていく姿と捉え、そのための環境構成を行ってきた。子どもが自らかかわり自ら選んだ遊びの中で、より体を動かして遊ぶことができるような援助を行い、そこから見えてきたものは、遊びのもとである、気持ちを高めるといったことだった。体を動かす環境が整っていても、子どもがもっとやりたいと意欲がもてないと、遊びを継続することは難しかった。また、体を十分に使うための発達段階を考えた援助が必要であることも実感した。さらに、身のこなしなどを体得することで、遊びが発展してきたことも明らかになった。

このようなことを踏まえ、私たちの幼稚園では、自ら体を動かすことが楽しいと感じ、体の機能を十分に使う身のこなしなどを体得しながら遊ぶ力を「遊び力」と称することにした。

(5) 附属校園連携研究テーマとの関連から

宮城教育大学附属校園では、国立大学の法人化がなされた平成16年度より、『かかわり合う力』をはぐくむ」をテーマとして12年間連携研究に取り組んできた。さらに今日的な教育課題や現在の附属四校園の取組を踏まえて、今後も継続テーマとして取り組んでいくこととした。特に、次の2つの資質や能力の育成に重点を置いている。

- ① 「もの」や「こと」に対して、興味・関心や課題意識をもちながら、物事の本質について追及していこうとする資質や能力

(※「もの」や「こと」・・・教材や課題，社会事象や身近な環境など)

- ② 周囲の「ひと」と主体的にかかわり、自ら働き掛けることで健全な人間関係を築いていこうとする資質や能力

以上のことを踏まえ、子どもが夢中になって遊ぶ環境とその援助の在り方について、実践を通して明らかにしていきたいと考え、本主題を設定した。

3 研究主題のとりえ

本園では、子どもが夢中になって遊ぶ姿を以下のように考えた。

- ① 意欲をもち、主体的に活動すること
- ② 明確な目的や目標をもつこと
- ③ 自ら進んでアイデアを出せるようになること
- ④ 遊びを深めていくこと
- ⑤ 遊びの様子が発展していくこと

遊びが楽しいと感じ、満足感や充実感を得ながら友達と協同して遊びを発展させる姿を大切にしていける。また、自ら体を動かすことを楽しみ、友達と衝突したり、いざこざがあつたとしても互いに折り合いをつけ、工夫したり相談したりして遊ぶことを進めることができる幼児の育成をめざす。

4 研究目標

「遊び力」をはぐくむための環境構成とその援助のありかたについて

実践を通して明らかにする

体の機能を十分に使って遊び、身のこなしなどを体得して、自ら体を動かすことが楽しいと感じながら遊ぶ力を「遊び力」と呼ぶ。この「遊び力」を高めるために、私たちの幼稚園では、「きもち」「体のうごき」の視点からアプローチして行くこととした。

5 研究計画

1年目	先行研究の収集 幼児の実態把握，保育の現状の把握 体を動かして遊ぶことに焦点を当てた遊びの実践事例集の作成
2年目 (本年度)	1年目の成果と課題を踏まえ，1年目に構築した理論に基づく実践 研究結果・評価の解釈
3年目	2年目の成果と課題を踏まえた実践，評価，考察

## 6 研究の内容（2年目）

- (1) 昨年度の成果と課題<課題となるキーワード>
  - ・体幹を使った遊びとは何か
  - ・体全身を使った動きができるような遊びの工夫
  - ・幼児の遊びを見取るための教師の力量
- (2) 本園の実態把握
  - 3歳児
  - 4歳児
  - 5歳児
- (3) 子どもたちの遊びから「遊び力」をはぐくむための活動を検討する
  - ・遊びを「きもち」「体のうごき」の視点に分けて捉える。
  - ・環境構成や援助の在り方について考える。
- (4) 夢中になって体を動かして遊ぶための実践事例をまとめる

## 7 実践研究の取り組み

### (1) 研究保育

年間5回（各学級1回）の研究保育を実施する。各学級の環境構成や教師の援助から、幼児の変容を検証する場であり、また互いの保育を見合うことで、保育の質の向上を目指す場とする。なお、事後検討会には、研究協力者である大学教員を招聘し、指導助言をいただく。

### (2) 学び合いの機会

本園では、全職員で幼児全体を見ながら保育を行っている。日々、それぞれの職員が良いと思った環境構成や幼児の姿を伝え合っている。より体を動かして遊ばせたいという思いと安全面の確保については、表裏一体の部分がある。様々な考え方が出される中から、共通理解されていく機会ともなり、互いに刺激し合いながら学び合う機会となっている。また、共通理解するための園庭マップを作成している。

### (3) 幼小連携及び異年齢活動

幼児と児童の交流活動や園内における異年齢での交流活動において、かかわりを意識した取り組みを計画的に行い、交流活動後の遊びの変容や双方の学びの関連性について検証していく。

### (4) 研修

#### ①園内研修

- ・ 大学教授による講義

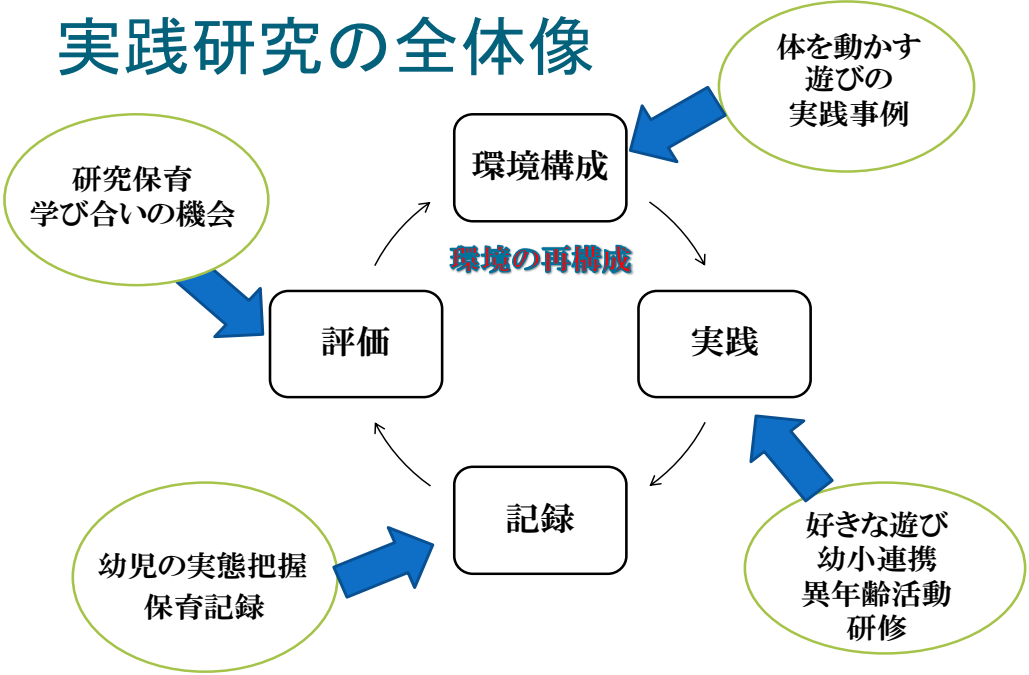
各担任が作成した体を動かす遊びに実践事例を持ち寄り、遊びの変容や幼児の人とのかかわり、身近な環境とのかかわり、幼児の動きについて話し合う。また、大学の研究協力者を中心に本園の研究テーマに沿った講義を受けたり、実技研修を受けたりする。

#### ②園外研修

- ・ 他の幼稚園視察

本園の研究テーマと関連している園を中心に、公開研究会に参加したり、視察をしたりする。参加者は、環境構成の写真などを入れたレポートを作成し、情報交換を行う。

# 実践研究の全体像



## 【本園教育目標】

お日さまいっぱいふりそそぐ中で、  
「元気な子ども」「やさしい子ども」「考える子ども」  
を育てる

### 〔今日的課題〕

- 運動の体験が少なくなっている
- 時代の要請（幼児期運動指針）

### 〔教育目標の具現化〕

3歳児 4歳児 5歳児

### 〔子どもの姿〕

- 成果と課題

### 〔研究の経緯〕

- 「遊び力」をはぐくむ

### 〔連携テーマ〕

- かかわり合う力をはぐくむ

## 【研究主題】

子どもが夢中になって遊ぶ環境とその援助  
～体を動かして遊ぶ～

## 【研究目標】

「遊び力」をはぐくむための環境構成とその援助の在り方  
について実践を通して明らかにする

## 【実践研究の取組】

- 1 日々の保育・研究保育
- 2 幼児の実態把握
- 3 学びの機会
- 4 幼小連携及び異年齢活動
- 5 研修

## 実践事例の作成

遊び力をはぐくむための環境構成とその援助の在り方

H28年度 年間計画

月	日	曜日	回	主な検討内容	取組の内容	備考	
4	5	火	研推委①	○ 今年度の研究について ○ 研究保育について	・研究主題と研究内容の確認 ・研究計画立案 ・研究全体構想図の作成 ・研究協力者の確認 ・研究保育候補日の確認 ・遊びの環境等の整理	園内研修① 4月6日 「幼稚園の保育について」 宮教大幼児教育講座教授 佐藤先生より	
	8	金	研全会①				
	15	金	研推委②	○ 研究保育について	・研究保育(全5回)の日程 ・指導案形式の検討 ・公開研究会第1次案内		
5	12	木	研推委③	○ 研究保育について	・研究保育の日程について ・事後検討会について	園内研修② 4月19日 「発達障害と愛着について」 宮教大特別支援教育講座准教授 植木田先生より	
6	10	金	研推委④	○ 研究保育について	・各学年、学級の様子 ・環境構成について ・公開研究会第2次案内	園内研修③ 5月18日 「わらべうた遊びの理論と実技」 宮教大名誉教授 佐藤先生より	
	24	金	研全会②	○ 幼児の実態調査 実態のとらえ方について	・各学年、学級の様子 ・環境構成について		
6・7			研究保育① 研究保育② 研究保育③ 研究保育④ 研究保育⑤	6月17日 さくら組研究保育 6月23日 いちよう組研究保育 6月29日 すみれ組研究保育 6月30日 たんぽぽ組研究保育 7月14日 うめ組研究保育	・事前の保育の視点 ・事後検討会 ・大学の研究協力者による指導、助言 ・環境構成について	園内研修④ 7月5日 「子どもが夢中になって遊ぶ環境とその援助～体を動かして遊ぶ～」 宮教大体育教育講座教授 前田先生より	
8	26	金	研推委⑤	○ 公開研究会について	・公開研究会、当日までの日程 ・公開研究会指導案について ・当日資料について ・学年、学級の姿		
9	16	金	研推委⑥	○ 公開研究会について	・公開当日の流れについて ・事前打ち合わせ会の日程 ・研究概要の説明	園内研修⑤ 7月25日 「発達障害と愛着について2」 宮教大特別支援教育講座准教授 植木田先生より	
	26	月	研全会③				
10	3	月	事前打ち合わせ会		・研究協力者との打ち合わせ ・研究概要の説明	園内研修⑥ 7月28日 「こま遊びとお手玉遊びの実技」 尚絅学院子ども学科准教授 安藤先生より	
	11	火	研推委⑦	○ 公開研究会について	・研究概要の説明		
	12	水	研全会④	○ 公開研究会について リハーサル	・公開、附連当日の流れの確認 ・当日資料の確認 ・研究概要の説明の確認		
	19	水	平成28年度 公開研究会				
	24	月	研推委⑧	○ 公開研究会、東北附連から	・公開研究会と東北附連からの学び		
11	4	金	研推委⑨	○ 公開、附連の反省について ○ 次年度公開研究会について	・公開、附連の反省(職員、参加者) ・平成29年度公開研究会日程について ・講演会講師について	園内研修⑥ 7月28日 「こま遊びとお手玉遊びの実技」 尚絅学院子ども学科准教授 安藤先生より	
	21	月	研全会⑤				
12	21		研推委⑩	○ 研究紀要について	・研究紀要作成の流れ、分担について	園内研修⑦ 7月28日 「こま遊びとお手玉遊びの実技」 尚絅学院子ども学科准教授 安藤先生より	
1	11	水	研推委⑪	○ 研究紀要について	・各学年、学級の姿 ・研究紀要作成の流れ、分担について		
	16	月	研全会⑥				
2	14	火	研推委⑫	○ 研究紀要について	・今年度の成果と課題 ・研究紀要原稿読み合わせ ・次年度の研究計画	園内研修⑧ 7月28日 「こま遊びとお手玉遊びの実技」 尚絅学院子ども学科准教授 安藤先生より	
3	6	月	研全会⑦				
3	8	水	研推委⑬	○ 次年度の研究について	・各学年、学級の姿 ・次年度に向けて ・研究紀要の発送について		